**ソーシャルデザインを目指すシナリオ**

ソーシャルデザイン機構は、「[価格＋５％拠出金](http://www.selfdecl.jp/)」という表示による取引で生み出される∑拠出金で我が国が抱える膨大な借金の増加をくい止める下記シナリオの啓発に取り組んでいます。

この取り組みを世間に認知してもらうため、大津地方裁判所に訴状を提出しました。（事件番号平成２９年（行ウ）第５号）

この第５号の事件の結論は明白なので、結審を待たずに早い機会に原告から「民間が進めるソーシャルデザインに政府は阻害しないことを条件とする和解」を提案し、ソーシャルデザイン構想のシナリオを考えています。

Ａ　まず[借金時計](http://www.借金時計.net/)を止める

１．国民の個人金融資産（４００兆円）を活用して、税収不足を補うために発行される新規国債を国民が購入して国民の拠出金（５兆円／年）から利率２～１％でその利払いをする。

２．５年据え置き後は市中金利＋で国民が自由に売買できるようにする。

３．国等に行財政改革を迫り、その果実で国・地方債務の償還分元利を返済する。

Ｂ　政財界もソーシャルデザインする

行政は、「実質**経済成長率** + **物価上昇**率 ＝ 名目**経済成長率」で表したときの物価上昇率の目標値を掲げる政策が破綻しているところ、財政赤字の減額、行財政改革といった成果も成長率の算定根拠にするなど新しい発想で国家財政の舵取りをすべきである。**

例えば生分解性プラスチック容器の実用化技術など、**格差の結果である産業界の内部留保金５００兆円を有効活用した我が国の**近未来像に考えを及ぼすべきである。

平成２９年７月１６日

[ソーシャルデザイン機構](http://www.selfdecl.jp/)